令和２年度大阪市看護職員認知症対応力向上研修カリキュラム

Ⅰ.基本知識（講義 180 分）

ねらい：認知症患者の入院から退院までのプロセスに沿って、基本的な知識を修得する。

到達目標：病院勤務の医療従事者向けに認知症に関する知識を　普及することができる

Ⅱ．対応力向上（講義 330 分・演習 150 分）

ねらい：個々の認知症の特徴・症状に対する、より実践的な対応力（アセスメント、看護方法・技術、院内外連携手法）を習得する

到達目標：１.入院及び退院時支援に必要となるアセスメントを実施し、適切に院内外に連携することができる

２．せん妄について、認知症との違いを理解し、特有の対応を適切に行うことができる

Ⅲ．マネジメント（講義 180 分、演習 240 分）

ねらい：マネジメント（人員、環境、情報管理等）の実践的な対応方法及び教育技能を習得する。

到達目標：１.各施設の実情に応じた認知症への対応方法を検討し、適切なマネジメント体制を構築することができる

２．自施設における看護職員への研修（本研修Ⅰ基本知識編相当）を実施することができる

日程	項目	内　容
２月 17 日（水）	基本知識講義（90 分）	①急性期病院での認知症の現状、認知症の病態、症状 ②せん妄の基本的な知識、予防、発見、対応 ③認知症を疑った場合の初期対応として実践すべきこと、初期集中支援
	基本知識講義（90 分）	①認知機能障害に配慮した身体管理 ②認知機能障害に配慮したコミュニケーションの基本 ③情報共有、退院調整、身体拘束、治療同意についての基本的な知識 ④管理者による取組の重要性 ⑤認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援
	対応力向上講義（60 分）	①退院調整での課題（特に再入院や緊急入院を防ぐためのコーディネート） ②地域連携（在宅医療、地域包括ケアの知識、退院時の情報提供、介護施設との連携）
２月 25 日（木）	対応力向上講義（180 分）	①認知症患者の身体管理 ②一般病院に求められる役割 ③認知症患者の世界観の理解、中核症状の理解、基本的な評価方法（アセスメント） ④認知症の疾病経過の理解と疾病段階を踏まえた　看護・支援の

		あり方 ⑤チームや病棟内での情報共有、部門間での情報共有 ⑥行動・心理症状（BPSD）の予防と病棟での環境整備 ⑦行動・心理症状（BPSD）の理解とアセスメント、 看護方法
2 月 25 日 (木)	対応力向上 講義 (90 分)	①せん妄と認知症の鑑別 ②せん妄の対策（予防及び早期発見・早期対応） ③在宅看護の実際・地域連携
2 月 27 日 (土)9:30 ～12:00 ま たは 13:30 ～16:00	対応力向上 演習 （150 分）	【演習】看護計画立案を通じた事例検討
【講義】 3 月 2 日 (火) 【演習】 5 日（金） または 11 日(木)	マネジメン ト 講義 （180 分） 演習 (240 分)	【到達目標】１.各施設の実情に応じた認知症への対応方法を検討し、適切なマネジメント体制を構築することができる ・認知症に関する事例を収集、見返し、フィードバックをする体制 ・病棟内、部門間での情報共有、人員の配置 ・コンサルテーション体制（院内・地域内での専門家へのアクセスの確保） ・標準的な対応手順・マニュアルの検討整備（認知症の療養・退院支援、行動・心理症状、せん妄） 【演習】自施設の現状の検討、振り返り
		【到達目標】２．自施設における看護職員への研修（本研修Ⅰ基本知識編相当）を実施することができる ・施設内での目標設定・研修計画立案、教育技法 ・自施設での研修を実施する上でのポイント、教育の要点の伝達 【演習】自施設内でのマネジメント体制の検討、研修計画立案